

羽村市史編さんだより

令和元年7月

第18号

伸びゆくはむら

1 News

2 資料紹介

4 部会の手帖

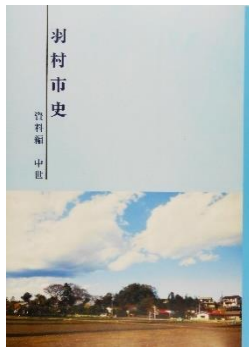
5 市史編さんの足あと

5 コラム「ちっとなべえ」

特集

3 地図を読む・地図で読む

『羽村市史 資料編』好評販売中です！



『羽村市史 資料編 中世』

A4判 249ページ
 絵：カラー
 本文：モノクロ
 価格：2,000円

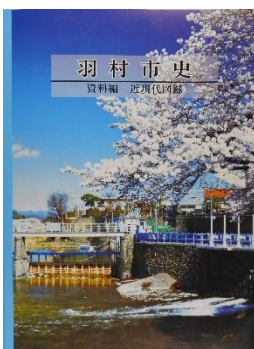
羽村では初となる、鎌倉時代から江戸時代初めにかけての古文書を集めた1冊です。
 羽村市域を含む「杣保（そまのほ）」一帯を支配していた三田氏などに関する資料や、市内に残されている石造供養塔についても、写真や拓本を掲載しています。



『羽村市史 資料編 近世』

A4判 306ページ
 絵：カラー
 本文：モノクロ
 価格：2,000円

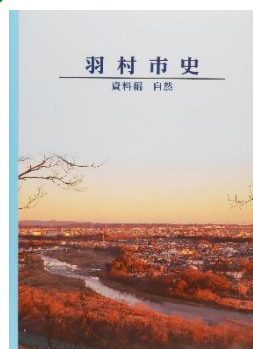
江戸時代から明治時代の初めにかけての古文書や絵図を、解説付きで掲載しています。
 調査によって新たに発見された史料や、初公開となる史料も収録しており、羽村市域の江戸時代の様子を感じることができる内容となっています。



『羽村市史 資料編 近現代図録』

A4判 327ページ
 絵：カラー
 本文：カラー
 価格：2,000円

明治時代以降の写真資料を、テーマ別に約680点収録し、それぞれの時代を振り返っています。
 羽村のまちづくりや、くらしの変化、発展に尽力された先人の思いなどを振り返ることができる内容となっています。



『羽村市史 資料編 自然』

A4判 379ページ
 絵：カラー
 本文：カラー
 価格：2,000円

およそ4年間にわたる調査によって収集された、羽村市の自然に関するデータを分析しています。
 地図や写真を掲載し、羽村市の地形・地質や、気候、動植物について深く知ることができます。

※羽村市役所1階総合案内、郷土博物館にて販売しています。

※「資料編」は、刊行予定の『羽村市史』本編の記述の根拠となる資料を掲載するもので、分野ごとに編集して刊行しているものです。



表紙の写真

間坂街道沿いの麦畑と地図記号

写真の場所を地図で見ると「V」と示されています。「V」は「畑」を示す地図記号です。植物の双葉を表しています。地図記号とは、地形・道路・施設・土地の状況などをわかりやすくシンボリックにデザインされた記号です。特集ページにも地図記号の一部を紹介しています。

写真の麦畑は、収穫期である「麦秋」を迎えています。収穫といえば「実りの秋」を連想しますが、麦にとっての秋は梅雨前なのです。

資料紹介

今号でご紹介する資料は、『羽村市史 資料編 近現代図録』からとりあげました。

「〈5-4-3-5〉玉川上水沿いを通過していくランナー 1964（昭和39）年10月」 （資料編281ページ）



1964（昭和39）年10月、日本ではじめて東京でオリンピックが開催されました。戦後の高度成長期を象徴する大イベントであり、日本全体が大きく動くエネルギーとなりました。

このときの聖火は、1964年8月21日にギリシャのオリンピアで採火され、9月7日に沖縄に到着しました。沖縄での聖火リレーの後、空路で鹿児島、宮崎、千歳に運ばれ、ここから4ルートに分かれ、それぞれが東京へ向かう聖火リレーが始まりました。

羽村への聖火は、9月9日に鹿児島を出発し、開会式2日前の10月8日に到着しました。青梅市からは奥多摩街道を進んで、小作坂上付近から奥多摩町のランナーが担当し、玉川神社付近で羽村町（当時）のランナーに引き継がれました。羽村町のランナーは、正走者1名、副走者2名、伴走者20名の総勢23名で隊列を組んで奥多摩街道を進みました。掲載した写真は、白バイに先導されて玉川上水第3水門付近を走るランナーたちです。沿道では多くの人達が見送っている姿も映っています。

10月10日の開会式は、抜けるような青空のもと挙行されましたが、羽村を通過した8日は、あいにくの空模様で、聖火が灯るトーチからも白煙が上がリ、沿道の人達も傘をさしている様子が分かります。

羽村を通過した聖火は、その後、羽村-福生境で福生町（現福生市）のランナーに引き継がれ、昭島市、日野市などを通過し、ほかの3ルートをとどってきた聖火と皇居前で集火され、さらに国立競技場へとリレーされました。

現在も各町内会で行われている一斉美化運動も、オリンピックを迎えるための清掃活動が発端となっており、そのレガシーは今に引き継がれています。

いよいよ2020東京オリンピックが来年に迫ってきました。ちょうど一年後の7月13日には、再び聖火が羽村市を通過します。すでにこの聖火をつなぐランナーの募集が始まっています。今回はどんなドラマが生まれるのでしょうか。どんなレガシーが生まれるのでしょうか。

原写真は、当時の羽村町役場広報担当が撮影し、ネガは広報広聴課が保管しています。

（参考）

東京都立図書館ホームページ

公益財団法人日本オリンピック委員会ホームページ

特集 地図を読む・地図で読む

○国土地理院1/25,000地形図

私たちの周りには地図があふれています。観光案内図や旅行情報誌などの紙媒体の地図のほか、インターネットで目的地を調べたり、自動車に搭載されたカーナビゲーションシステムなどのデジタルマップを含めて、知らず知らずのうちに地図を利用し、地図を読んでいます。

地形図とは、「各地を測量して、土地の起伏、集落、土地利用の様子等を描いた地図」のことです。同じ標高地点を線で結んだ「等高線（とうこうせん）」で地形を示しています。

今回は、基本の地形図ともいわれる、国土地理院発行の紙媒体の1/25,000地形図から、羽村市域の地形を見ていきます。掲載した図版は、原図をデータ化していますので、実際の地形図とは異なることをご了承ください。

○地形図と実際の地形を見比べる

地図を読むときの大原則は、地図と正対したときの上が北の方角を示すことを理解することです。右が東の方角になります。

◎ 市役所	△ 裁判所	⊕ 保健所	★ 小・中学校	⊕ 博物館
○ 町村役場	◇ 税務署	⊗ 警察署	⊗ 高等学校	□ 図書館
⊖ 官公署	⌵ 消防署	X 交番	⊕ 老人ホーム	⊐ 記念碑
-52- 水面標高	⊕ 病院	⊕ 郵便局	⊕ 発電所等	⊕ 電波塔

▲凡例の一部

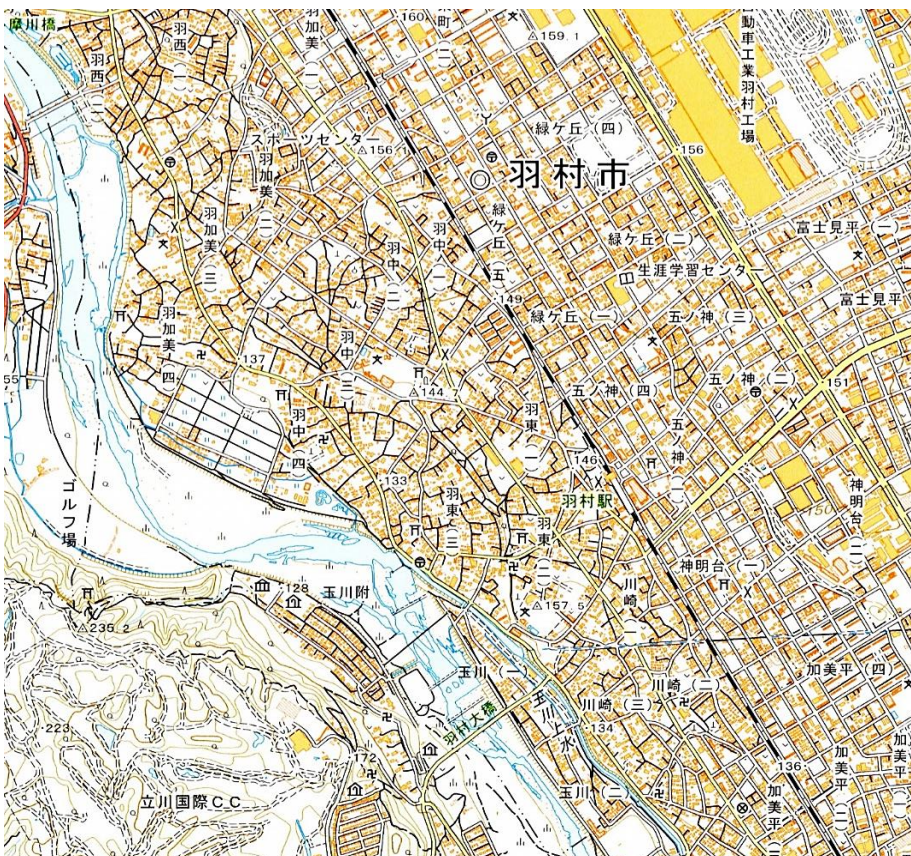
では、最初に凡例（はんれい）を見てみましょう。凡例は、地図に記載されている記号などの説明です。「◎」は市役所、「文」は学校を表すなど、おなじみのマークもあります。羽村市役所の場所、わかりますか。等高線は10mごとに示すことになっています。

では、実際に地図を読んでみましょう。左上の角から右下にかけて多摩川が流れていることがわかります。その左下側、つまり南西側は等高線が狭い隙間で書かれています。これは、標高が急に変化していることを表しています。ここには草花丘陵が広がり、羽村神社周辺では、崖が急なことがわかります。多摩川の北東側は、根搦前の水田が表され、青梅線が走り、建物がオレンジ色に着色された住宅地が広がっている様子がわかります。グリーントリム公園周辺の段丘崖も数本の等高線が書かれています。ところどころ数字が書かれています。これがその地点の標高です。先ほどの南西側と比べ、等高線が分かりにくいのは、市街

地の表記に隠れていることもあります。全体的に緩やかな傾斜であることを示しています。

地形図は坂道や崖などの立体的な土地の変化を、等高線により平面的に表現することを可能にしています。また、私たちの普段の視線からは分かりにくい、場所や建物の総体的な位置関係を読み取ることができます。平面を立面にイメージすることができます。現地で見比べてみると更に実感することができます。

『羽村市史 資料集 自然』では、地形図以外の地図も多用して羽村市の自然を解説しています。地図を読むことによって、理解が一層深まることでしょう。



▲国土地理院発行 2万5千分1地形図「青梅」(一部) (平成30年1月1日発行1刷)
(地図上の1cmが実際の250mになります)

部会の手帖



各部会の活動の様子を紹介します。

※4～6月の活動をお知らせします。

第1部会 ～原始・古代・中世～

郷土博物館に収蔵されている縄文土器の注記情報を整理したほか、資料編に掲載する画像の選定準備をしました。また、資料編「考古」に追加掲載する中世資料のレイアウト等の調整を行いました。

このほか、資料編の原稿執筆状況を確認し、追加調査や図版作成を進めています。

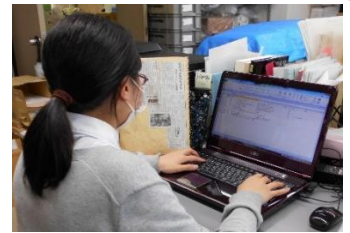
第2部会 ～近世～

資料編の刊行を終え、本編の執筆に向けた準備を中心に活動しています。

市内の古文書を再確認しつつ、他の自治体に残されている資料も閲覧しています。

江戸時代の羽村市域の人々の生活の様子や移り変わりについて整理を進めていきます。

第3部会 ～近代・現代～



郷土博物館に収蔵されている地域史料の調査や、市内の個人や機関から借用した様々な資料の目録作成を行いました。

また、市に保管されている紙媒体の行政資料のデータ化や、新聞記事の筆耕作業を進めています。

第4部会 ～自然～

『羽村市史 資料編 自然』を刊行し、調査も一段落しました。次に控える本編の刊行に向けて、活動を継続しています。資料編に掲載した成果を、本編の内容へ活かせるように工夫しながら取り組んでいきます。

第5部会 ～民俗～

資料編の刊行に向けて、調査も大詰めを迎えています。

今年の春祭りでは、昨年度までの調査の補足として、個人宅での赤飯作り、草餅作りの調査をしました。

聞き取り調査も継続して実施したほか、園芸組合が実施している、市内の植栽の様子なども撮影しました。



市史編さんの足あと

※①～⑤は部会の数字です。（例）① ⇒ 第1部会

月	日	できごと
4月	5日（金）	③市内資料調査（羽村市図書館） ※以下定期的に実施。
	11日（木）	③市外資料調査（福生市中央図書館） ※以下定期的に実施。
	13日（土）	⑤市内春祭り関係調査（個人）
	15日（月）	羽村市史編さんだより第17号発行
	18日（木）	①市内資料調査（郷土博物館） ※以下定期的に実施。 ⑤市内資料撮影（郷土博物館）
5月	24日（水）	③市内資料調査（個人）
	14日（火）	⑤市内聞き取り調査（個人）
	22日（水）	⑤市内行事調査（個人）
	26日（日）	⑤市内行事調査（町内会） ⑤市内作業風景撮影（個人）
	27日（月）	⑤市内作業風景撮影（団体）

月	日	できごと
5月	29日（水）	③市内資料調査（郷土博物館） ⑤市内作業風景撮影（団体） ⑤市内資料調査（郷土博物館）
	30日（木）	⑤市内資料調査（郷土博物館）
6月	1日（土）	⑤市内風景撮影（多摩川）
	9日（日）	⑤市内行事撮影（団体）
	10日（月）	⑤市内聞き取り調査（個人）
	13日（木）	⑤市内聞き取り調査（個人）
	18日（火）	①市内資料調査（羽村東小学校）
	30日（日）	⑤市内行事調査（阿蘇神社）

「伸びゆくはむら」バックナンバーについて

以下の場所でご覧いただけます。

- 市史編さん室(市役所西庁舎3階)
- 羽村市図書館(3階地域資料コーナー)

▼コチラから



このほか、羽村市公式ウェブサイトでも
ご覧いただけます。

コラム

ちっとんべえ

第18回 「動物たちのおつきあい」

ここ数年、イノシシやシカが出没したというニュースをたびたび耳にします。また、朝の通勤途中には、カラスがゴミをあさっている場面に遭遇することもあります。

野生動物が多く生息しているということは、それだけ自然環境が豊かであるとも言えますが、農作物にとっては困ったことも。

最近では、野生動物対策にドローンを導入しているところもあるようです。空撮で野生動物の行動パターンを分析して出没場所の予測を立てたり、田畑に近づいた野生動物へ、ドローンから超音波を出して追い払うというものです。この方法なら、野生動物を傷つけずに農作物を守ることができます。

ここでふと、昔の人々が野生動物についてどのような対策をしていたのか興味がわいてきました。

江戸時代においても、野生動物による農作物の影響は少なからずあり、羽村市域の古文書にも記録が残されています。ただ、羽村周辺は尾張藩が鷹狩りを行う「鷹場」に指定されており、獲物になる動物を保護していました。つまり、被害があ

ったからといって動物を勝手に駆除するなどの対応はできなかったのです。

そのため、このような野生動物に対しては、領主の許可を得て案山子（かかし）をたてたり、鉄砲で大きな音を鳴らして追い払うことが主な対処法だったようです。

これらの方法以外にも、農作物の被害を減らすために独自の対応が試みられていました。その方法は、普段作物を栽培している畑の入口で、サツマイモや野菜などを育てるというものでした。野生動物に畑の入口にある作物を“おとり”としてあえて食べさせ、他の作物への被害を軽減させたのです。この“おとり”の作物も、野生動物に食べられずに収穫することができれば、領主に支払う年貢の足しにできるという、まさに一石二鳥の方法でした。

知恵を絞って農作物を守りつつ、収穫できる作物も増やそうという、当時の人々のたくましい姿が垣間見れます。（S.Y記）

※「ちっとんべえ」とは、羽村の昔ことばで「ちょっと、少しばかり」という意味です。